



(新学章)

# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第7号

発行日 2007年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/>

編集者 前村 晃  
代表者



## 母校の発展を願って

## 同窓生の支援を期待

佐賀大学同窓会 理事長 宮尾 正隆

農学部からバトンタッチされ、今年から2年間、文化教育学部の庶務担当の私が理事長を引き継ぐことになりました。ご報告致しますと共に、一層のご協力をお願い致します。

私と佐賀大学との関わりは、昭和32年(1957)当時の教育学部特別教科美術・工芸教員養成課程に入学したときから始まり、卒業後、母校の佐賀大学に勤務、平成15年退官するまでの永きにわたります。最初の窯芸の授業で粘土に触れた感動が今日まで窯芸家としての道に進む契機となりました。課外はサッカーに熱中し、文字通り粘土と土にまみれた青春時代を謳歌しました。物質的には貧しくとも、心豊かなよき学生時代だったと思っています。

同窓会との関わりも大学在職中から始まり、現在顧問の初代会長、田中幸男先生の時からお手伝いさせて頂いておりました。

卒業後、昭和47年より母校に奉職致しましたが、その間、大学も大きく様変わりしました。医学部との統合や、大学の独立法人化等に伴い同窓会も改革が求められています。

特に、時代の流れとはいえ、独立法人化に伴う難題は多く、佐賀大学も例外ではありません。今までのように国や多方面からの助成や援助等は期待薄で、各大学の独立性がより強く要求されるようになりました。大学内で解決すべき事が多く出てきています。加えて、大学に向けられる社会の期待や要望、大学の果たす役割はなお大きくなっています。

こうした地域社会のニーズに応えていくためには、同窓生の皆様のお力添えなくしては困難と思われれます。

大学に寄せられる重要性をご理解のうえ、会員の皆様方のより一層のご協力をお願いいたします。また、会が円滑に活動できますよう、貴重なご意見や、ご助言、ご希望等を頂き、大学や同窓会により積極的なご支援を賜りますようお願いいたします。

## 平成19年度 事業計画を決定

4月11日(水)、定例役員会を開催し、18年度事業及び決算報告、19年度事業計画及び予算を協議決定しました。

### 1 会報発行事業

- 1) 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」発行 (年2回)
- 2) 佐賀大学広報「かちがらす」発送 (年3回)

### 2 事業活動

- 1) 支部総会・懇親会参加
- 2) 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
- 3) 佐賀大学PR
- 4) 提供講座「キャリアデザイン」
- 5) 就職支援
- 6) 佐賀県青春寮祭参加
- 7) 開学祭支援事業
- 8) 懇話会「クリエイティブ21」

## 平成19年度 佐賀大学同窓会役員名簿

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科
会長		久間 善郎	楠葉・37経	理事	広報	後藤隆太郎	理工・H6土	理事	庶務	光富 勝	農学・51農
副会長		宮島 豊秀	教育・35小	"	広報	有馬 進	農学・52農	"	情報	今野 厚子	教育・51中
		梅崎 正道	楠葉・37経	"	広報	吉賀 豊司	農学・H2園	"	情報	加藤 明	医学・63医
"		市場 正良	医学・61医	"	資料	江口 信義	教育・36中	"	情報	渡邊 健次	理工・62物
"		田中 正和	理工・48化	"	資料	百武 英明	楠葉・37経	"	情報	寺山 康教	理工・H1機
"		北川 行俊	農学・37農	"	資料	岩本 幸子	医学・H9看護	"	情報	田中 宗浩	農学・H4生
理事長		宮尾 正隆	教育・36美	"	資料	深井 澄夫	理工・53電子	"	懇話会	小池 政雄	楠葉・34英
副理事長		光岡 正登	楠葉・34経	"	資料	森田 昭	農学・52農	"	事務局長	副島昭十郎	楠葉・33法
"		佐籬 武	医学・59医	"	会計	成富 宏	教育・38美	監事		青柳 博臣	教育・31中
"		椿 忠彦	理工・48物	"	会計	石丸 新	楠葉・44法	"		青山 祐二	楠葉・42経
"		白武 義治	農学・51農	"	会計	江村 正	医学・62医	"		大串 和久	医学・61医
理事	広報	永吉 一子	教育・33小	"	会計	中島 道夫	理工・47化	"		太田 里美	理工・48教
"	広報	前村 晃	教育・45美	"	会計	田久保真一	農学・48園	"		福島 是幸	農学・38農
"	広報	徳永 進	楠葉・49経	"	庶務	三原 信一	教育・42中	顧問		田中 幸男	楠葉・29化
"	広報	江口 邦子	楠葉・48経	"	庶務	長 安六	楠葉・44経	"		関本 優	楠葉・31経
"	広報	枝國源一郎	医学・H3医	"	庶務	土肥佐和子	医学・H9看護				
"	広報	池上 康之	理工・61生機	"	庶務	穂屋下 茂	理工・49機				



【会長】  
久間 善郎  
楠葉同窓会



【副会長】  
宮島 豊秀  
文化教育学部同窓会会長



【副会長】  
梅崎 正道  
楠葉同窓会会長



【副会長】  
市場 正良  
医科大・医学部同窓会会長



【副会長】  
田中 正和  
理工学部同窓会会長



【副会長】  
北川 行俊  
農学部同窓会会長



【副理事長】  
光岡 正登  
楠葉同窓会副会長



【副理事長】  
佐籬 武  
医科大・医学部同窓会副会長



【副理事長】  
椿 忠彦  
理工学部同窓会副会長



【副理事長】  
白武 義治  
農学部同窓会副会長

# 佐賀大学との意見交換会

## 2007.4.25

4月25日、ホテルニューオータニ佐賀において、恒例の「佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会」があった。

大学側からは、長谷川学長はじめ、5名の副学長、監事、各学部長と事務局長の計13名が参加され、同窓会側からは久間会長はじめ、5名の副会長、宮尾理事長、4名の副理事長、理事（事務局長）、理事（広報担当）の計13名が参加した。

主催者側の久間会長からは、現在、同窓生が4万592名いること、同窓会によるキャリア教育講座が学生に好評であること、クリエイティブ21で佐大の課題を浮き彫りにしていること、支部活動が活発であること、大学にとって厳しい時代であるが佐大の火を消さないことなどが語られた。

長谷川学長からは、大学の将来について語りやすい場の提供に対して感謝すること、授業料を値上げすること、大学・大学院改革に関して6会議が同時に走っていること、西川副学長の佐賀大学改革の記事が「文部科学教育通信 No170」に掲載されたこと、などが語られたが、特に教育再生会議をはじめとする中央での会議の提言等の状況についてコピーが配布され詳しく説明がなされた。



また、参加者各位からさまざまな意見、提案等がなされたが、すべてを詳しく記載することはできないので、大学、同窓会両者から出された意見を網羅的に項目であげておく。

- ・ 出口、入り口をしっかりとすること。
- ・ 高い外部評価を目指すこと。
- ・ 文系学部の改組が課題であること。
- ・ 地域貢献の重要性。
- ・ 広報活動を充実化すること。
- ・ 定例記者会見を設定していること。
- ・ 佐賀の大学として位置付けること。
- ・ 医学部が30周年を迎えること。
- ・ 医師国家試験の合格率が上位であること。
- ・ 支援により現役教採が20名になったこと。
- ・ 大学院改革が課題であること。
- ・ 少子化、理工系離れが課題であること。
- ・ 地域密着の農業研究がなされていること。
- ・ 学力以外の人間力も必要であること。
- ・ 危機意識をもつべきこと。
- ・ 生き残るために知恵をはたらかすこと。

こうした形での大学と同窓会の意見交換会は年一回であるが非常に貴重な場といえる。法人化以後の大学は以前のような護送船団方式というわけにはいかない。こうした場を通して初めて、佐賀大学の課題が同窓会側にも明確になり、同窓会としてどんな協力ができるかも明らかになるからである。



# 学部と附属学校の共同研究進む

## 全国に先駆ける数々の試み

本学部の名称が、文化教育学部と変わった今も、本学部の最大の使命は教員養成です。

本学部は、文部科学省においても、教員養成系の所管に属しています。したがって、どういう教員を養成できているのか、教員として何名が採用されたのか、附属学校園は本来あるべき機能を十分に果たしているのか、といったことは学部の将来を決定する重要課題となっています。

そうしたこともあって、本学部では数年前から、学部と附属学校園との連携を深め、共同研究を推進していますが、昨年度からは数々の具体的な活動を開始しています。

たとえば、附属小学校では、昨年度は学部の教員が附属で授業をするという計画を実施いたしました。のべ16名の学部の教員が小学校の教壇に立ちました。まだ、こなれた状態で実施できているものばかりというわけにはいきませんが、いずれの授業も子どもたちには刺激的で新鮮なものとなったようです。

また、附中生がリトル・ティーチャーとして小学校の授業に参加するという企画も実施いたしました。

附属中学校では、附中生と保護者が体験できる六つほどの大学の講義が用意されましたが、参加者からは大変好評だったようです。

また、学部と附属の教員が共同で授業を設計して、実施に移し、その結果を分析して学内の紀要等に報告するという研究も数本なされています。

大学の教員が個人的に附属学校で授業をするということは、これまでも時には見られましたが、組織的に実施するということは、全国的にもほとんど例がなく、佐賀大学における実践は先駆的な試みとなっています。

本年度も、学部と附属のこうした共同事業は学部・附属共同研究推進委員会を中心に計画が練られ、実行に移されつつありますが、これらの活動はすべて中期目標を達成するためのものでもあります。

## 佐賀のがばいばあちゃんと佐大

漫才師、島田洋七氏の映画「佐賀のがばいばあちゃん」がその後も、国内、国外で大きな話題を呼んでいます。

島田氏は広島生まれですが、小学校、中学校時代を、赤松小学校、城南中学校で過ごすという経験をもっています。しかも、島田氏の記述によると、佐大とも関係がないわけではなく、佐賀で氏を育てた「がばいばあちゃん」は佐大や附属学校で清掃の仕事をしていたそうです。

そのこともあってか、映画では附属小学校や附属中学校がロケ地になっており、エキストラとして出

演した附属学校生もたくさんおります。佐大関係者にとっては興味深い映画です。



文責・前村 晃・昭41

## 平成19年度総会

### 梅崎会長を再選

平成19年度楠葉同窓会総会を5月26日(土)「佐賀大学菱の実会館」で開き、平成18年度事業報告・決算報告と平成19年度事業計画・予算案を承認しました。

役員改選では、会長に梅崎正道氏(33入・文理 経済)を再選したほか、副会長に光岡正登氏(30入・文理 経済)、小池政雄氏(30入・文理 英文)、折原高宏氏(30入・文理 経済)を、また、荒木弘幸氏(53入・経済 管理)を新たに理事に選任しました。

新役員名簿は、楠葉同窓会ホームページに掲載しています。



### 1. 平成18年度事業報告

#### (1) 会報発行事業

84、85号を発行しました。

#### (2) 組織強化事業

8支部で総会開催。楠葉同窓会本部から全ての支部総会に出席しました。

#### (3) 就職援助活動

在学生に対し同窓会名簿の配布や企業別・同窓生に関する情報提供を行いました。

#### (4) 『同窓会員名簿』発行事業

2005年版『同窓会員名簿』の頒布。

## 懇親会のご案内

今年度の懇親会の内容が決定しました。経済学部1回生が還暦を迎えるというそんな節目の年でもあります。多くの会員のご参加をお待ちしています。

と き：平成19年9月29日(土) 18時

と ころ：千代田館

佐賀市高木瀬町東高木216-1

電話 0952-32-5115

会 費：3,000円

(5) 会費納入会員の拡大

(6) 佐賀大学に関する他の同窓会、大学との連携促進

### 2. 平成19年度事業計画

平成18年度事業の継続を基本としますが、新たに2008年版『同窓会員名簿』の作成・予約受付に取り組みます。

## 支部活動強化に多くの意見

出席者からは、支部活動の問題点が多く報告されました。

楠葉同窓会独自では支部活動はできない。楠葉と全学の二重構造で今後もやっていけるか不安である。

楠葉だけの活動では、今後難しい。しかし、他学部支部との連携がとれない。

支部活動は全学部で取り組めるよう、楠葉から全学同窓会に提案して欲しい。

案内を出しても返事が少ない。転勤の人の把握が難しい。

複数の学部で実行委員会をつくって進めている。やれる範囲で垣根をとりはらっていきたい。

(徳永進45入・経済 経済)

# 紫 峰 連 山

佐賀大学循環器内科 教授 野出 孝一

六畳一間の閑散とした部屋には机と本棚が一つだけあり、本棚には使い古した英和辞典等が数冊あるだけだった。佐賀医大に入学するまで在籍していた大学の教科書や専門書は処分するか実家に置いてきた。新天地に移る覚悟と新しいことを学ぶことへの自分なりの整理をつけたつもりだった。

下宿の部屋から見える山々の峰は、佐賀平野の蓮華草の色にも重なり紫色に輝いているように見えた。

一つの部屋に同じ下宿の仲間が集まり、新しくできた自分達の下宿の名前をつけるため話し合った。色々ユニークな名前が上がり、アルコールが入っていたのでそれだけで楽しく盛り上がった。結局私が提案した紫峰寮に落ち着いた。部屋から見える天山連峰の紫色のイメージが残っていたからである。

紫峰寮は風呂や洗面場も共有で、当然、寮に住む全員が毎日顔を合わすわけで、プライバシーなどあってないものであり、個人情報などほど遠い共同体であった。寮と同じ敷地に住む大家さんにも家族と同じように面倒をみてもらった。何回か寮生と大家さんの家族と一緒に宴会をしたこともあった。寮生は全員同じ学年の同級生であったが、鹿児島、宮崎、熊本、北九州出身の友人の焼酎の飲み方に唖然とした。当時は今の焼酎ブームでなく、高校まで大阪で育ち、東京で学生生活を送った私にとっては、酎ハイがはやりかけていたころであったが焼酎は未知の飲み物であった。特に鹿児島の枕崎出身の友人がカツオの干したものと芋焼酎のロックの組み合わせが一番と言っていくら飲んでもまったく酔わないのを見て、関西人とはDNAが違うのではないかと感じた。

寮から大学までは歩いて15分。大学まで何もさえないものがないので、すごく近く感じるが、実際歩いてみると遠い。毎日歩くのが辛くなり、時々市内（鍋島も佐賀市だが街に行くときは市内に行くと言っていたような気がする）に行く用事もあり、1月位で原付の免許を取り、中古の原付バイクを買った。当時は学生は車より原付バイクが主流で、鍋島暴走族と称して、皆制限速度をオーバーして、ヘルメットなし（当時はヘルメット着用は法律で決まっ

ていなかった）で大学周辺をビュンビュン飛ばしていた。佐賀県警はスピード違反にはやたら厳しく、大学での会話には誰々が何キロオーバーで何日免停になったというような話題が欠かせなかった。私も何回か金立の講習会にお世話になった。

大学生活の方は、1年次は前の大学で単位を修得したので暇だった。クラブも入っておらず、今から考えても毎日何をしていたかあまり記憶がない。おそらく、同期の友人と下宿でだべる時間が多かったのだろう。ただ、元々文系人間に物理や化学の試験が唯一のストレスだった。2、3年次になると専門科目が増え、医学生らしい生活に嬉しさを覚えた。ただ元来与えられたものを覚えるといわれるとやる気がでない性格で、試験勉強はきらいだった。図書館で月刊雑誌の「medicina」や「内科」を散読したり、医事新報を少し背伸びをして読んだりするのが好きだった。

今はインターネットでどこからでも原著論文が読めるようなペーパーレスの時代になったが、当時、手にした雑誌は未だにその時の手の感触、表紙の汚れ、図書館の雰囲気の内容がリンクされてよみがえってくる。

5年のときに図書館で読んでいた南江堂の「内科」に慢性心不全の治療に関する座談会の記事があった。心不全の大御所の教授と一緒に当時留学から帰ったばかりの若手の阪大助手の堀正二先生が座談会に参加されていた。そのポイントをついた発言に感銘し、いつかその先生のいる研究室で働いてみたいと思うようになった。その後、阪大第一内科に入り、くしくも堀先生の実験グループに入り、最後の直弟子になったことにも縁を感じている。

若い学生諸君にはどの場所にも世界は広がっているということを伝えたい。佐賀医科大学の教室、図書館、庭の隅々に思い出があり、現在の私につながっていると感じる。入学後20年、再び母校に帰り、自分の当時の姿を重ね合わせながら学生と接している。時々、同じ場所で「内科」を散読しながら、堀先生のような存在に、私になれているかを反省しながら当時の気持ちを思い返すことがある。

## 卒業生へのメッセージ

6

## 理と工の狭間で

機能物質化学科  
学科長 野口 英行

工業化学科、化学科および機能物質化学科の卒業生の皆様、お元気ですか。私は、平成19年度の機能物質化学科の学科長をつとめる野口英行といたします。

理工融合を旗印に工学系と理学系の化学科の改組により平成5年当学科が誕生しました。しかし、20年以上の歴史を有する両学科間の壁は高く、実質的に一つの学科として機能し始めたのは、9号館に移転した平成13年になります。教職員が一つの目標を目指し融合をはかろうと取り組んだJABEE(日本技術者教育認定制度)受審が認定という成果を生みました。この間、学生教育という観点からは、理系と工系の壁は完全に払拭されました。

大学は、研究と教育を両輪として動いています。物理という学問の応用部門が別の名前、例えば電気や機械、を持つのは異なり、化学という学問分野は、基礎から応用までを含むところが大きく異なります。この為、基礎的な意味合いの強い研究から応用的な研究まで幅広い研究を含み、理学と工学に関する境界線はありません。これは、個人のレベルにもおよび自分の研究に関しても、日和見主義的な私はアカデミックな方向に研究を進め自尊心を満足させるべきか、社会の要請に即した実用化を目指す研究をするのか日々悩ませられている次第です。即ち、研究面での理工の壁は、存在したことはないと言っ



生の目から見ると、理とか工とか言うことが不自然と感じられているかも知れません。

結局、理と工の壁は組織の壁であり、時間という慣性力のみが打ち勝つことのできることに感じています。時は今、やっと機能物質化学科は実体化をむかえつつあります。

話は変わりますが、21世紀は持続可能な社会の構築が人類の解決すべき課題となっています。物質や材料に関する研究が社会の要請に応える低環境負荷の有益な材料の提供、物質のリサイクル技術や物質循環に関する知識提供、省エネ関連材料の提供など化学が活躍する場が大きく広がっているのを感じています。最後に、このような分野の第一線で働かれている卒業生諸氏の益々のご活躍を期待しております。

## 理工学部同窓会総会開催のお知らせ

来る平成19年9月22日(土)に理工学部同窓会総会を開催いたします。

**日時：平成19年9月22日(土) 16:00～**  
**場所：佐賀大学「菱の実会館」**

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/rikou/info.html>

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせ下さい。

# 曲がりの角



佐賀大学農学部  
学部長 野瀬 昭博

時代認識を問うと、何時の時代も「曲がり角」である。しかし、平成16年度から始まった国立大学の法人化は、とりわけ地方国立大学にとって真正正銘の曲がり角の時代となっている。その存在基盤が法律で担保された状態から自立あるいは自助努力を原則とする法人へ移行し、個性輝く大学・知の拠点・科学立国等々と、そのまま受け取れば大学に寄せられる社会の期待は夢溢れるものであるが、その現実には競争、評価、査定という厳しい試練である。ここでは、農学部における教育と同窓会との関係について私見の一端を述べご挨拶としたい。

**農学部における教育：**佐賀大農学部は昭和63年に5学科体制を2学科4系の体制に改組し、平成18年に3学科体制へ再改組を行った。この間の教育体制の改革は、農学教育のとらえ方についての時代の変遷を体現したものであったように思う。つまり、第一次改組は農学教育のもつ総合性の評価であり、第二次改組は総合性を求めた教育の経験を踏まえ、専門性の再評価と総合性のぶつかり合いであった。第二次改組の議論は、1学部1学科体制と3あるいは4学科体制の検討に終始したが、その核心は農学のもつ総合性と専門性を如何に調和させるかという点であった。その結果、専門性を意図した応用生物科学科と生命機能科学科が組織され、総合性を目指す生物環境科学科という体制が実現された。

4年を費やした議論の中で実現した新たな学科編成は、受験生の推移を見る限り、それなりの評価を得ていると考えている。しかし、当事者として議論の内容を振り返ると、要点が農学あるいは佐賀大学という枠内に留まったのではないかという反省である。当然のこととして我々の学部は世界の大学、あるいは日本の大学の流れの中に存在するわけで、特に戦後日本の大学の変遷の中で教育の在り方が検討されるべきであったよう思う。現実を感じている時代認識と歴史という流れの中で示される時代認識にはズレがある。少しマクロな時代認識に立って、農学教育の総合性と専門性を目標とする学生像と受け入れ側の社会の期待に如何に対応させていくのか、大学院改組を目前にし、平成22年度から始まる次期

中期目標を定めるこの時期に緊急に答えをださなければならぬ課題である。

**同窓会について：**曲がり角にある大学の在り方を別の言葉で表せば、大学が社会からの支持を得られる機関となっているか否かが問われているということである。このため大学の役割として学生の教育に留まらず、地域貢献や国際貢献が問われ、特に地方大学においては地域との関係を如何に築くのが課題となっている。

佐賀大学の地理的位置は九州北部の九州縦貫道と横断道が交差する位置にあることは周知のことで、農学部に限って言えば、九州中北部5県の中で地域貢献を大学憲章の中心に据えた唯一の学部であると自負している。過去においても佐賀県はもとより福岡、長崎、大分、熊本県には多くの人材を送り出し、共同研究等の様々な係わりを築いてきた。このような地域との関係は、大学院教育においてより高度な専門職業人の育成が問われる状況と成り、今後なお一層の関係強化が図られると予想している。

地方行政機関の各種委員や民間との共同研究等々、個々の教員の普段の活動を通して具体的な社会貢献が行われているが、大学が社会からの支持を得るときにより直接的な係わりを持つ組織が同窓会である。大学と社会をつなぐ強力なパイプとしての同窓会の役割は大きい。特に、同窓会との関係は、大学における教育活動や普段の交流を通じた自助努力で改善できるところに強みがある。

現在の同窓会と学部・大学の関係は、何かあるときにサポートをお願いする依存的な側面が強いように思う。大学が知の拠点であり、学習の場であることは、今後もその社会的な役割として達成していかなければならない点で、存在の基本である。成熟社会においては、生涯にわたる学習を通して新たな自己発見と技術の高度化を図ることが必要とされている。生涯学習は、同窓会の皆さんに限らない広く一般社会に佐賀大学が提供しなければならない役割であるが、特に同窓会の皆さんへは青春時代を確かめ、自己確認をしながらの自己再開発の場として社会人入学や公開講座を活用していただければ幸いである。

同窓生の**職場** ⑦

## 佐賀県農業大学校

～ 佐賀農業の後継者と指導者を育てる伝統校～

本学は、明治43年から、農事試験場見習生を皮切りに農業講習所、農業研修学園などと名称を変えながら、昭和51年に「農業大学校」となった歴史ある伝統校です。4千名を超える卒業生は、先進的農業者あるいは農業指導者として、佐賀農業の発展に貢献しています。教育課程は、農産、野菜、花、果樹、畜産の5つの専攻で、2年制の本科と1年制の専科があります。1年生は全員が川副町の本校、2年生になると農産・野菜・花専攻は本校、果樹専攻は小城市の果樹分校、畜産専攻は武雄市の畜産分校でそれぞれ専門を学びます。学生は、全寮制で、規則正しい生活習慣や仲間づくり、社会人としての自律心と協調性を培います。また、



先進農家研修・海外研修等を通して、農業の実践力や国際感覚を養います。更に、大型トラクター、農業機械士、ボイラー・危険物取扱、家畜人工授精師、農協職員などの資格を取得できます。現在、入学金と授業料は無料であり、就農する学生は、就学支援資金制度を利用できます。

また、本学では、農家の機械化・経営研修、就農希望者の技術修得研修など、幅広い観点から佐賀農業の担い手育成に努めています。

佐賀大学農学部同窓生は、校長や副校長、教授・助教授等職員として、また、県内の関係機関・団体に在籍しながら講師として、多くの方々が本学の教育に関わっています。

森田 昭(農学・52卒)



✉	支	部	
	だ	よ	り

## 鹿児島県支部総会・懇親会

本年の鹿児島県支部の総会と懇親会は、例年に戻り、平成19年1月20日、薩摩郷土料理の店「熊襲亭」において開催されました。

本部から久間佐賀大学同窓会会長をはじめ、楠葉同窓会、農学部同窓会、理工学部同窓会、文化教育学部同窓会の各代表の方々のご参加をいただきました。支部の出席者は11名(うち女性2名)でしたが、

県内各地から駆けつけ、初めての参加者もあり、再会を喜び語らい、楽しい集いとなりました。

恒例により、久間会長から本部を代表して、佐賀大学や大学同窓会の近況報告をうかがい、とりわけ法人化後の母校を心配していた出席者一同も母校及びそれを取り巻く教育環境の発展の姿に思いを馳せるとともに、ひとまず安堵いたしました。

懇親会の席では、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇談会となりました。

支部長 上 田 耕 平(文理・39卒)

# 恩・師・情・報……この一年

平成18年7月から平成19年6月までの動向を掲載します。(敬称略)

## 定年退職

辻 健 児 文化教育学部教授  
 村 上 晋 文化教育学部教授  
 田 村 榮 子 文化教育学部教授  
 米 澤 充 文化教育学部教授  
 友 国 勝 麿 医学部教授  
 野 口 義 夫 理工学部教授  
 小 倉 幸 雄 理工学部教授  
 田 中 達 治 理工学部教授

中 野 智 弘 理工学部講師  
 瀬 戸 邦 聡 理工学部教授  
 西 田 新 一 理工学部教授  
 加 藤 治 農学部教授

訃報 謹んでご冥福をお祈ります。

元経済学部名誉教授 平 野 義 隆 氏  
 平成18年12月4日

## 第15回 佐賀県青春寮歌祭のご案内

今年は15回目の節目でもあり、九州寮歌祭(11月18日・日曜)の前日に佐賀県青春寮歌祭(11月17日・土曜)の開催となりました。

会員のご参加をお待ちしています。



1. 日 時 平成19年11月17日(土)  
13:00~17:00
2. 場 所 佐賀市交流センター  
「エスプラッツホール」3階

参加希望の方は、佐賀大学同窓会事務局までご連絡下さい。



## 大学及び同窓会の動き

H19.1.10 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 立場久雄氏(農学部)  
 17 単位提供講座キャリアデザイン 総括  
 20 鹿児島支部総会・懇親会 / 熊蘇亭  
 26 第22回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学医学部長 木本雅夫氏  
 2.1 佐大各後援会と同窓会との打合せ / 「菱の実会館」多目的ホール  
 14 「キャリアデザイン講座」反省会・代表者会議 / 「菱の実会館」多目的ホール  
 6 マレーシア留学生送別会 / ニューオータニ佐賀

3.16 佐大同窓会代表役員会  
 3.23 佐賀大学平成18年度学位記授与式(卒業生正会員となる1,689名)  
 30 第23回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学医学部附属病院長 十時忠秀氏  
 4.11 佐大同窓会定例役員会  
 25 佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会 / ニューオータニ佐賀  
 5.17 佐大同窓会会報「楠の葉」No.7 編集会議  
 26 佐賀大学 開学祭 ~27日まで  
 6.13 佐大同窓会代表役員会  
 22 第24回「クリエイティブ21」 / 佐賀大学経済学部長 納富一郎氏